

第3ステージ「学校評価の4点セット」例

学校の教育目標：ふるさとを愛し、自ら考え行動し、共に高まり合う児童の育成					
育成を目指す資質・能力：問題発見・解決能力、自己実現力、協働性					
資質能力	重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)
【知識及び技能の習得】	【基本】 基本的な学習の習慣や生活習慣の育成 【基礎】 基礎的な学習の習慣や生活習慣の育成	【知】 ○国・県・市の学力調査及び単元テストの全てで低学力層の割合5%以下 【体】 ○体力・運動能力調査項目において、全国平均を上回る児童が70%以上。また低体力層の児童生徒が5%未満	学校	○新大分スタンダードに基づく授業改善	○授業者は、まとめ・振り返りの時間を毎時間設定する。 ○授業者は、努力を要する児童生徒に対する手立てを講じた授業を毎時間行う。
			学校	○学習状況に応じた個別指導の充実	○週4回20分間のスタディタイムを組織的に取り組むため、全校一斉で行い、全職員で個別指導にあたる。
			学校	○柔軟性及び握力・持久力の向上	○授業者は、柔軟性及び握力の向上をねらったストレッチやサーキット運動を、毎時間体育の授業始めに位置づけ、楽しく取り組めるよう、低体力層や運動嫌いの子どもを中心に、声かけをする。
			家庭	○メディアコントロールと読書習慣の定着	○保護者は、週1回のノーメディアデーには、親子読書や読み聞かせを行う。
地域	○学校への丸付け支援	○学校運営協議会学習支援部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ50人以上が丸付け支援に参加する。			
【思考力、判断力、表現力等の育成】	【現】 自分の考えをもち、自信を持って表現する 【徳】 互いの考えを尊重し、自信を持って表現する	【知】 ○各教科の定期(単元)テスト、評価テスト、ワークシートにおいて、記述式問題の無回答者の割合を10%未満、正答者の割合を80%以上 【徳】 ○ハイパーQU検査やアセス検査において、学級生活満足群の児童生徒が全国平均以上、要支援群の児童生徒数5%未満	学校	○生活科や総合的な学習の時間を中心に据えた深い学びの実現	○授業者は、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表の探究活動のプロセスを明確にした総合や生活科の授業を毎時間行う。
			学校	○授業改善による深い学びの実現	○授業者は、月1回の振り返りシート(思考・判断・表現力の視点)を用いた互見授業を通して、授業改善に取り組む。
			学校	○人間関係づくりプログラムの推進	○学級担任及び担当は、15分程度の構成的グループエンカウンターやSSTを週に1回以上行う。
			家庭	○親子での会話の充実	○保護者は、週に1回以上、子どもと学校での友だち関係や出来事等について話す機会を設ける。
地域	○生活科・総合的な学習の時間への参画	○学校運営協議会地域連携部及び学習支援部は、ゲストティーチャーによる授業、体験活動等の企画運営に関与し、学期に延べ30人以上が学校支援に参加する。			
【学びに向かう力、人間性等の涵養】	【働】 自ら課題を見つけ、様々な課題に仲間と協働する 【徳】 互いの考えを尊重し、自信を持って表現する	【徳】 ○「学校は楽しい」「友だちと仲良くすごしている」「友だちは自分の気持ちをわかってくれる」「友だちのいいところを発見し、自分の良さに気づいた」の項目について、児童評価及び教職員評価(教師の見取り)の4評価が90%以上 【体】 ○「朝の運動タイム(1校1実践)」において、自分の目標を達成できた児童生徒90%以上	学校	○学びを生かす振り返りの実施	○授業者は、単元末に、学びを今後の生活に生かす視点での振り返りをノート等に記述させる。
			学校	○他者理解及び自尊感情の涵養をめざした仲間づくり(人間関係づくり)	○担当は、集会活動や縦割り班活動を活かして、互いのよさやちがいを認め合えるとともに自分のよさを知る取組を学期に2回以上は行う。
			学校	○朝の運動タイム「1校1実践」の推進	○担当は担任と連携し、毎週金曜日の朝の運動タイム(晴天:マラソン、雨天:縄跳び)を実施し、子どもが目標を達成できるよう支援する。
			家庭	○「家族ふれあいスポーツデー」の実施	○保護者は、月に2回以上、週末に家族で運動し、親子でふれあう機会を設ける。
地域	○学校への訪問	○学校運営協議会学習支援部及び地域連携部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ100人以上が授業参観や発表会を参観する。			
【働き方改革の推進】	業務改善の推進	○月平均の時間外勤務時間を45時間以下にする ○学校の教育活動がよりよいものになっていると感じている地域・家庭・ボランティア等の割合80%以上	学校	○教職員のスケジュール管理の推進	○教職員は、カリキュラムや学校行事を見通したスケジュール管理(タイムマネジメント)を、月1回以上実施する。
			学校	○熟議の積極的活用	○学校運営委員会を中心に、会議・学校行事の精選・見直しを学期に1回以上実施する。
			家庭	○役割の明確化	○PTA執行部や専門部は、生活や学習習慣改善のための取組や呼びかけを学期に1回以上実施する。
			地域	○熟議の積極的活用	○学校運営協議会は、学校の業務改善につながる支援について、学期に1回以上の熟議を実施する。
地域	○積極的な学校支援	○学校運営協議会専門部会は、PTA等と連携して、学期に1回以上、授業や学校行事への支援を実施する。			